

電子展示委員会活動報告

電子展示委員会

伊勢物語を公開

平成15年度より関西大学図書館のウェブサイト内に「電子展示室」を開設している。その中に、新規のコンテンツとして、「伊勢物語」を追加した (<http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/isemonogatari/ise-top.html>)。今回追加した資料は、本学が所蔵する伊勢物語のうち、慶長13年～15年（1608～1610）に刊行された古活字版と、延享4年（1747）年に刊行された木版の資料で、伊勢物語絵入り版本の初期と後期をそれぞれ代表する2点である。いずれも全ページの画像を公開し、伊勢物語に関する説明と、資料およびすべての挿絵についての解説を、文学部の山本登朗先生のご協力により添付した。古活字版は、いわゆる嵯峨本ではなく、いわばその海賊版であるが、本文の活字が非常に美しく、挿絵も優雅に描かれている。一方、1747年刊の方は、浮世絵師の西川祐信が挿絵に描いた人物が、古活字版と比較すると当世風になっていたり、該当する本文とは無関係な位置に配置されていたりするところに特徴がある。山本先生の解説によれば、本文と挿絵の不一致は、本文とは別個に挿絵だけを鑑賞するようになったためと考えられる。このように特徴が異なる二点を同時に紹介することで、伊勢物語という作品自体の面白さと、その中で今回紹介した資料の特徴の違いを比較しながら楽しんでもらうことを意図した。

ウェブサイトの構造は、電子展示室のトップページに伊勢物語のメニューを追加し、そこから伊勢物語のトップページへ遷移する。伊勢物語のトップページには、当該資料2点についてそれぞれ上下各巻並びに解説ページへのリンクを設けた。各巻のページからは、125段からなる伊勢物語の各段落へ遷移することが可能となっている。また、冒頭から順に閲覧することも可能である。

今回も、画像ファイルの作成は撮影したカラーマイクロフィルムをスキャンしてTiff画像を作成し、それから公開用に圧縮したJpeg画像を作成した。サイトデザインは、フレームやロゴ、背景色等は既存のデザインを踏襲したが、対象資料が恋物語であることから、それを表現した鶯色等のポイントカラー

を採用し、また「月」と「雲」をキーパーツとして施した。さらに、画像をできるだけ一画面で大きく表示することを提案した。マイクロフィルム・画像ファイルの作成、サイトデザイン（HTMLファイルの作成）作業は、共に業者委託によるものである。作業期間は、テーマの設定と公開資料の決定を5月頃に行い、他大学等の先行事例を調査した上で、9月にマイクロフィルム作成を行った。サイトの設計等は、たたき台を9月に委託業者へ提示し、打合せを重ねながら詳細を詰め、1月27日に公開した。

前回の展示テーマは、浮世絵であり、今回初めて本文のある資料を公開することとなった。これを今後のテストケースとして捉えるならば、①画像のサイズの確定（本文が確認できなければ公開する意味がない）②解説文の必要性（研究者以外の方には、何らかの解説がないと退屈なものになる可能性がある）③資料内のページ遷移方法（段落単位での遷移を行い、2つの資料の同じ箇所を確認しやすくした）といった点の検討が必要であった。これらのポイントは、本文を持つどんな資料にも当てはまるものではなく、公開する資料の特徴をよく見た上で、適切なものを選択していくしか方法はないが、今後展示テーマを追加していく際の参考になると考える。

今後の課題等

昨年度公開した長谷川貞信浮世絵資料は、大学からのプレスリリースを行ったこともあり、学外からの問い合わせが増えている。電子展示委員会では、これまで大学と図書館ホームページでの紹介以外に、広報活動を行ってきたとは言い難い。新たにコンテンツを追加するにあたっては、図書館の活動を広く学内外の方に知っていただくために、広報面から見た効果についても検討し、大学のプレスリリース等を効果的に利用することを考慮する必要があるものと思われる。また、長谷川貞信の浮世絵資料については、さらに公開画像を充実できないかとの要望が寄せられており、費用面を提案しながら、検討を継続し、近い将来に実現したいと考えている。